

再興第75回

院

展



'91年3月8日(金)～3月24日(日)
開館 ● 午前9時～午後5時(初日は午前10時オープン、金曜日は午後7時まで)月曜日は休館
入場料 ● 一般700円/高・大生400円/小・中生200円(前売り・団体20名以上は2割引)

主催/高松市美術館・財団法人 日本美術院・四国新聞社

高松市美術館

真野 潤「藤子仙」



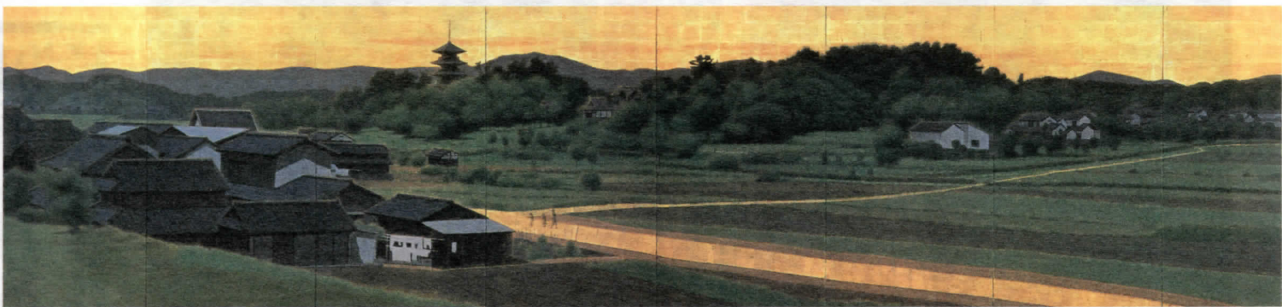
奥村土牛「平成の富士」



小倉遊亀「半夏生」



片岡球子「面構(師 歌川豊広・弟子 安藤広重 師 歌川豊春・弟子 初代歌川豊國)」



平山郁夫「吉備路緑景」

日本美術院は、近代日本画の指導者・岡倉天心が橋本雅邦と共に明治31年(1898年)に、創立した日本画の美術研究団体です。東洋美術の正しい伝統を基礎として維持し、新時代の新美術を開発、樹立することを目的とした意欲的な活動は、当時の日本画壇に新鮮な息吹を与えました。

一時、経営不振に陥り、明治39年(1906)には谷中初音町にあった研究所を茨城の五浦に移すこととなります。しかし、前年に没した岡倉天心の逝去を機に大正3年(1914)横山大観、下村観山、安田靉彦、今村紫紅らが再興をはかり、同年10月には再興第1回展覧会を開きました。

その後も、日本美術院からは小林古径、前田青邨、

速水御舟、富田溪仙などの俊英が多数輩出し、現在も日本画壇の中心的な研究団体として活躍を続けています。

今年で第75回を数える本展では、先頃101歳で亡くなられた奥村土牛画伯の遺作となった「平成の富士」をはじめ、面構シリーズで独自の画業を切り開いた片岡球子、シルクロードの画家として有名な平山郁夫、山岳風景を得意とする福王寺法林をはじめとする同人の作品30点をはじめ、本年度受賞作品、香川県出身作家の入選作品ほか総数80点を展観いたします。

●本年度受賞者

- 内閣総理大臣賞——長谷川清澄
- 文部大臣賞——関口正男
- 日本美術院賞(大観賞)——那波多目功一
- 日本美術院賞(大観賞)——水谷愛子
- 日本美術院賞(大観賞)——手塚雄二

●講演会

- 《日本美術院草創》
- 3月17日(日) 午後1時30分より講堂にて
- 講師/寺本郷史
- (日本画家/日本美術院特待)